

ふじみサラダボール子育て情報

「母と子をつなぐ絵本」

令和5年2月22日号

板橋富士見幼稚園



グッドナイトストーリー

乳幼児は、いつもお母さんの温もりの中で一緒に過ごすことを求めます。なぜなら人間は、動物の中で唯一未成熟で生まれ、周囲の人の手を借りなければ生きられない生き物だからです。そのため人の温もりの中で育つことで、心の安定を得ることができるのです。

成長と共に人とのかかわりも、家族から「集団社会」というものへ広がり、その中で人は互いに支え合いながら生きていきます。

乳幼児は、お母さんの声、感触、匂い、笑顔や声掛けを常に求め続けています。そして、自分の周りからお母さんがいなくなることを極力恐れます。そのため、一緒に添い寝をしたり、膝の上で本を読んであげたりすると、子どもはとても安心し、心が安定します。子どもの傍で一緒に絵本を読んであげることで、お母さんの安定した心が声という信号によって子どもに届き、安らぎを感じとることができるのです。

絵本は、いつでも子どもが受け手となって、お母さんと遊べる遊び道具のひとつと言えます。働き詰めで忙しくしている時こそ、グッドナイトストーリーが乳幼児の精神性を豊かにします。しかし、義務感に駆られて読んであげる添い寝の読み聞かせは、親のそわそわ感が伝わり、子どもも心をそわそわさせ、ゆったりと聞き入ることができません。もしかすると「お母さん忙しそう。私が寝たらすぐにどこかにいってしまうのかしら」と思っているかもしれません。



乳幼児期の絵本の読み聞かせは、絵本を理解させたり絵本に集中させたりすることが目的ではありません。お母さんと一緒にいつまでもずっと居たいために、「ねえねえママ、本読んで」と言ってくるのです。

お母さんと一緒に時を忘れて過ごす時間は、子どもが成長してからも温かいぬくもりの思い出として、深く心に残ることでしょう。

【写真：先日表現発表会を終えテラスで再現遊びを楽しんでいます】